



これまで積み上げてきた幼・保・こ・小・中の連携を基本方針としてまとめ、園・学校・家庭・地域が一体となり、15年間の切れ目のない、より質の高い教育・保育の充実を図る

乳児保育

◎愛着関係の形成

➤非認知能力の育成

【受け取る力】

- ・応答的なかわり
- ・話し手の目を見る
- ・安心できる人が傍にいる

【伝える力】

- ・思いをしぐさや言葉で表す
- ・あいさつや返事をする

各園(岸幼稚園・向原保育園・やまきたこども園) *推進園:岸幼稚園

・3園で「山北こども研究会」を構成し、「主体的に活動できる環境の工夫」を共通のテーマに研究を推進する

・外部講師(お茶の水女子大学アカデミック・プロダクション寄付講座教授、お茶の水女子大学こども園アドバイザー 宮里暁美氏)を招聘しての公開保育・研究会の開催

・小学校との滑らかな接続をめざし、小・中学校の授業公開、研究会への参加と行事等とおして、職員間や幼児・児童・生徒の交流を積極的に行う

研究テーマ

社会の中で他者とよりよく関わりながら自分らしく生きることが できる人間力と社会力の育成



めざす子ども像、具体的な姿を全職員で共有して、研究を進めています。

<めざす子ども像 5歳>

- 明るく元気で思いやりのある子
- 自分で考えて表現する子
- 自然に親しみ、地域とのふれあいを大切にする子

幼児教育

◎人と積極的に関わる力の育成

➤非認知能力の育成

【受け取る力】

- ・話し手の目を見る
- ・反応する
- ・最後まで聞く

【伝える力】

- ・あいさつや返事をする
- ・遊びの中で、知っている言葉を使い自分の気持ちを伝える
- ・困ったことを伝える



<めざす子ども像 15歳>

- 意欲を持ち学びつづける子
- 人とかわる力や思いやりのある子
- 運動に親しみ、健康で笑顔あふれる子
- 自らすすんで自己表現できる子
- 国際感覚とともに郷土に愛着を持つ子

小学校教育

◎対話力の育成

- 非認知能力育成の継続
- 主体的に学ぶ力の育成

【受け取る力】

- ・相手の話を共感的に最後まで聞く
- ・自分の考えと比べながら聞く
- ・相手の考えや意図を理解しようとして聞く

【伝える力】

- ・自分の立場を明確にし、根拠や理由をつけながら発言する
- ・相手に伝わりやすいように話す
- ・友達の考えとつなげて話す

小学校(推進校:川村小学校)

・研究テーマ「人権を尊重し、互いに認め合い励ましあって、ともに伸びていく子供の育成～確かな知識にもとづいて豊かに伝え合う子どもの育成～」を設定し、国語科を中心とした知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力を高める授業づくりをめざす。

・外部講師(早稲田大学教授 小林宏巳氏)を招聘しての授業研究

中学校教育

◎社会的表現力の育成

- 育まれてきた非認知能力を社会で生かす思考力・判断力・表現力の育成

【受け取る力】

- ・相手の考えと比較しながら聞き、自分の考えをまとめる
- ・聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり深めたりする

【伝える力】

- ・根拠をもとに自分の立場を明確にし、相手が理解納得できるよう論理の展開を考えて説明する
- ・場の状況に応じて言葉や表現を工夫し、分かりやすく伝える
- ・合意形成に向け、互いの発言を生かしながら話し合う

中学校(推進校:山北中学校)

・研究テーマ「主体的・対話的で深い学びづくり～社会で生かせる、思考力・判断力・表現力を育むために～」を設定し、学習評価に主眼をおいた授業づくり・授業改善をとおして、子どもたちの「社会で生かせる思考力・判断力・表現力」を育成する

・外部講師(元帝京大学小学校相談役 矢野英明氏)を招聘しての授業研究



社会の中で他者とよりよく関わりながら、自分らしく生きる山北の子ども

今年度研究推進の重点

「0歳から15歳までの一貫教育・保育基本方針」をもとにした研究の推進

- *山北スタンダードカリキュラムに基づいた各園・各学校での研究の推進
- *研究会の持ち方の工夫
- *子どもたち同士の園、各学校間での積極的な交流事業
- *共通参観視点を持つでの相互研究会参加と「顔が見える関係づくり」
- *全国学力・学習状況調査の分析・共有

次年度の研究方向

●0歳から15歳までの一貫教育・保育のさらなる推進

- *園・学校研究の深化
- *持続可能な連携・交流のあり方検討
- *山北スタンダードカリキュラムの活用促進と見直し
- *アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの作成
- *園・学校間交流事業の促進
- *家庭・地域への周知
- *教育・保育担当課一元化による効果的な事業展開

★今年度の実践より

- 教育・保育の相互理解
- *異校種の研究会等に参加した先生から

「小学校では、その授業、その教科の単元において『身に付けさせるべき力』が明確になっていた。そして、それを意識して『授業をつくる』『単元をつくる』ことが大切だと感じた。さらに、学年の系統性を考え、自分の担当の学年だけでなく、それぞれの学年で積み重ねていくことが重要である。」



園・小・中合同研究会

「遊びの中にも、子どもたちのたくさんの発見や学びがあったことがわかった。保育教諭の支援は必要な時だけで、子どもたち一人ひとりの思いや動きを大事にしている姿が印象的だった。遊びを広げるための『適切なアドバイス・タイミング』そして『異年齢集団の関わり』を学んだ。」



異校種体験研修

